

様式第 1 0

平成 3 0 年度 循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
湯沢雄勝広域市町村圏組合地域	湯沢市、羽後町、東成瀬村	H23. 4. 1～H29. 3. 31	H23年度～H28年度

1 目標の達成状況

(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成29年度) A	実 績 (平成29年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	6, 101 t	5, 415 t (-11. 2%)	5, 950 t (-2. 5%)	22. 0%
	1 事業所当たりの排出量	t	t	t	
	生活系 総排出量	t	t	t	
	1 人当たりの排出量	kg/人	kg/人	kg/人	
合 計 事業系生活系総排出量合計	22, 757 t	19, 918 t (-12. 5%)	19, 990 t (-12. 2%)	97. 5%	
再生利用量	直接資源化量	0 t (0. 0%)	1, 896 t (9. 5%)	1, 705 t (8. 5%)	89. 5%
	総資源化量	3, 393 t (14. 9%)	3, 194 t (16. 0%)	2, 727 t (13. 6%)	-118. 2%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	%

※ 目標未達成の指標のみ記載。

2 目標が達成できなかった要因

○排出量について

事業系総排出量が目標達成できなかった要因として、各自治体から排出されるごみを生活系として処理していたものを事業系としての処理に修正したこと、また、東成瀬村のダム建設に伴う事業者の増加等による事業系ごみの増加が要因となっている。このようなことから総排出量が目標を達成できなかった。

○再生利用量について

直接資源化量（缶、びん、古紙）が目標達成できなかった要因は、使用される容器のペットボトル化が進んだことによる缶及びびんの市町村収集量の減少が要因と思われる。また総資源化量が目標達成できなかった要因については、集団回収量の減少が一番の要因ではあるがペットボトルが有価物であることから一般事業者での収集も行われていることによりペットボトルの収集量の減少も一因となっている。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 平成36年度まで

○排出量について

ダム建設に伴う事業者の増加が要因として大きいことから、事業者へ向けのごみの分別等の啓蒙・指導を強化しつつ、排出量全体の目標達成に向けて引き続き、ごみの減量化のため啓蒙活動や助成等を住民・事業者・行政が連携し実施していく。

○再生利用量について

資源ごみは現在有価物としての価値が高く一般事業者の収集も活発に行われていることから直接資源化量及び総資源化量の減少となっはいるものの、住民にとっては排出機会の増加となっていることから今後も目標達成に向けて新しいリサイクルルートの構築を調査・検討していく。

(都道府県知事の所見)

排出量及び再生利用量については、ダム建設に伴う事業者の増加や、民間事業者による資源ごみの収集等が影響し、目標未達成となっている。

改善計画書に記載された、住民、事業者、行政が連携した排出抑制や再生利用の取組により、できるだけ速やかに目標を達成するよう努めていただきたい。

循環型社会の形成に向けた総合的かつ計画的な取組の推進を期待する。